

令和3年11月19日
(2021年)

保護者の皆さまへ

吹田市立第一中学校
校長 田中 和彦

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

○国語

「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域については、全国値を上回り、「読むこと」の領域については、全国値を上回っている。また、無回答率は全国値をすべての項目で下回っており、学習に対して意欲的な姿勢が結果に表れている。



話すこと・聞くこと

- ・「話し合いの話題や方向を捉える」や「質問の意図を捉える」については、概ねできている。

書くこと

- ・「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」については、やや課題がある。
- ・「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」や「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」については、概ねできている。

読むこと

- ・「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」ことは、全国値とほぼ同じである。
- ・「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」については、全国値を上回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・「文脈に即して漢字を正しく読む」については、概ねできている。

●国語における成果と今後の改善点について

段落相互の関係を見抜くことが難しく、自分の考えを明確に伝えるための表現の効果について考えることが難しい。
⇒段落相互の関係に着目し、文章全体の構成を捉えることができるように指導する。
⇒自分の考えを明確に伝えるための「より効果的な表現の工夫」について、推敲するよう指導する。

○数学

「数と式」、「図形」、「関数」の領域については、全国値を上回っており、「資料の活用」については、全国値とほぼ同じである。また、無回答率は全国値をほとんどの項目で下回っており、意欲的な姿勢が結果に表れている。



数と式

- ・「数学的な見方や考え方」については、概ねできている。

図形

- ・「数学的な見方や考え方」については、全国値を上回っている。

関数

- ・「数量や図形などについての知識・理解」については、概ねできている。

資料の活用

- ・「数学的な技能」については、全国値を下回っている。「数学的な見方や考え方」については、全国値を上回っているものの、一部課題がある。

●数学における成果と今後の改善点について

与えられたデータから中央値を求めることや、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、効果的に活用したりすることが難しい。また、図形の性質がどのように変化するかについて、興味を持ち、それを数学的に表現することに課題がある。
⇒日常生活における事象について、数学的に分析し、資料を活用・説明していく活動を増やす。
⇒様々な場面で自ら状況を設定し、考察できる機会を設定する。



○英語 ※質問紙調査のみ

英語の質問に対する肯定的な回答が全国値を上回っている。特に、「これまで学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分ありましたか」の質問については、全国値を上回っている。

今後、小学校における「外国語活動」や「外国語科」と、中学校の学習内容との円滑な学びの継続が図られるよう工夫するとともに、体験的な活動や言語活動を中心とする授業を構成していく。

○新型コロナウイルス感染症が生徒に与えた影響について

「勉強について不安を感じていた」の肯定的回答率は、全国値を下回っているものの、過半数以上の生徒が不安を感じていた。また、「規則正しい生活を送っていた」の肯定的回答は全国値とほぼ同じで、半数の生徒が規則正しい生活を送っていた。また、「わからないことがあった場合は、どのようにしていたか」については、「そのままにした」と回答した割合は、全国値を下回り、「友達に聞いた」生徒が多かった。

今後、オンライン授業の検証を行い、学校と生徒のつながりの確保及び学習に対する適切な支援を検討していく。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向



○学習環境・生活環境について

- 全国値と同じく、本校でも朝食をとっている生徒、同じ時刻に起床し、同じ時刻に就寝している生徒が多い。
- 「人が困っているときは、すすんで助けていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」、「人の役に立つ人間になりたいですか」について、肯定的な回答がいずれも90%以上あり、社会性及び社会に貢献しようとする生徒が多い。しかし、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」については、全国値同様、肯定的回答が過半数に届いていないため、具体的に考え、動くことまで至っていない。

○教科・学習について

- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか」、「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていたか」について、肯定的意見が全国値を上回っている。
- 授業におけるコンピュータ使用頻度について、全国値を上回っている。

3 今後の取り組み

本校では、これまで「主体的、対話的な深い学び」に向けた「学び合いの授業（協同学習）」を進めてきました。また今年度はGIGAスクール構想でSUNネット端末の活用も一段と進み、本校でも「ICT×思考力」というテーマで研究を進めてきましたので、アンケートの結果からも肯定的な回答が全国値を大きく上回りました。今後は、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を実現していくために、研究を進めてまいります。また、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、確かな学力の育成と心の教育の充実に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

